

読書が身近に感じられる市の取り組み

本を読む習慣が小さいころから身に付けば、豊かな心が育まれます。市では、生涯をとおして読書が身近に感じられるよう、さまざまな取り組みを行っています。

NO.1

ブックスタート ～読書をとおして親子の絆を育む～

3～4カ月児健診のときに、市内のボランティアが3冊の絵本を読み聞かせ、お気に入りの本を1冊プレゼントしています。

この取り組みには、絵本をとおして赤ちゃんとお母さんが触れ合い、ゆっくりと心安らぐ時間を過ごしてほしいという思いがあります。

市では、平成23年からこの事業をスタートし、これまで約7,000人に絵本をプレゼントしてきました。

※現在は、新型コロナウイルスの影響で読み聞かせを休止していますが、絵本のプレゼントは引き続き行っています。



NO.2

図書館オンラインサービス ～読書をもっと身近で便利なものに～



市内の図書館・図書室にある全ての図書は、市ホームページにある「蔵書検索」で調べることができます。

読みたいと思う図書を近くの図書館・図書室に取り寄せたり、よく貸し出されている本を調べたりすることもできます。

また、本の内容も紹介しているので、自分に合った本と出合えるかもしれませんよ。

NO.3

図書館支援員を全校に配置

子どもたちにとって学校図書館を身近で行きやすい場所にするため、市内全ての小中学校に図書館支援員を配置しています。

支援員がいることで、学校図書館の利便性が高まり、子どもたちが図書館に行きたいという気持ちにつながります。支援員は、子どもたちの興味や関心ごとに合う本を紹介する身近な相談相手として、より良い読書環境づくりをサポートしています。

私にとって図書館支援員の仕事は、1つの書店を経営しているような感じです。

私が紹介した本を、子どもたちが楽しそうに読んでいる姿を見ると、とてもうれしいです。図書館を安らげる場所にして、子どもたちにたくさん本を読んでもらいたいと思っています。

古河第一小学校図書館支援員
塚原麻衣子さん



読書が育む豊かなココロ

特集



日常生活で生まれる本との出会い。このかけがえのない出会いをとおして、小さなころから読書習慣を身に付けていくことが大切です。ここでは、読書を通じて子どもたちの豊かな心を育むために、市が行っているさまざまな取り組みを紹介します。

図書館支援員

図書館オンラインサービス

ブックスタート

読書手帳

市が配布する 読書手帳

- 場所** 市内図書館・図書室
- 対象** 原則として市内在住・在学の高校生以下
- 費用** 無料
- 申込** 図書館・図書室で、市が発行している図書カードを持参の上、申し込み

子 どもの読書意欲を高めるとともに、本に親しむ習慣を身に付ける取り組みとして、読んだ本の記録ができる「読書手帳」の配布を今年2月から始めました。

読書手帳は、図書館で借りた本のタイトルや日付を記録したり、感想などを記入したりすることで、今までに読んだ本を思い出し、後から振り返ることができます。

8月末時点で1619人に手帳が発行され、中には1冊では収まらず2冊目に突入した読書家も多くいます。

いろいろな本に出合っただけのステキな読書手帳を作り上げていきましょう。